

初心者向けのセット

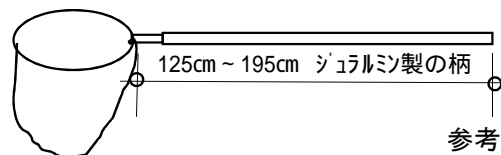
a) 志賀昆虫Aスプリング式



参考価格 1750円

網枠のスプリングが竹の中に収納できます。
(収納は網を枠から外すので手間がかかる)
30cmのナイロン網付きです。

b) ホームセンター



参考価格 1480円

伸縮式のジュラルミン製の柄に風切の良いメッシュの網が付いています。
網が柔らかくないので、蝶の羽を痛めることもあります。

網・枠・竿を、バラで購入して組み立てる

a) 網

	60cm	2,006円
メッシュネット	50cm	1,728円
(トンボ・甲虫用)	42cm	1,620円
	36cm	1,257円
	60cm	1,728円
ナイロン白	50cm	1,512円
	42cm	1,190円
	36cm	967円
	30cm	864円
	50cm	2,430円
本絹 白	42cm	1,750円
	36cm	1,320円
	30cm	1,170円

	差し込み式	ねじ込み式
b) 枠	50cm 1,930円	2,080円
スプリング金具	42cm 1,460円	1,540円
軽いが強く振ると変形する	36cm 1,450円	1,530円
	30cm 1,440円	1,520円

軽合金四つ折り	70cm	5,709円
	60cm	4,299円
	50cm	4,197円
	42cm	4,094円

c) 竿	120cm	1,575円
木製差し込み	270cm	2,040円
竹製3本つなぎ	150cm	4,320円 仕舞寸法45cm
ジュラルミン製	360cm	10,380円 仕舞寸法60cm
カーボン製		

釣具店での購入が安価

注) 価格はすべて参考です

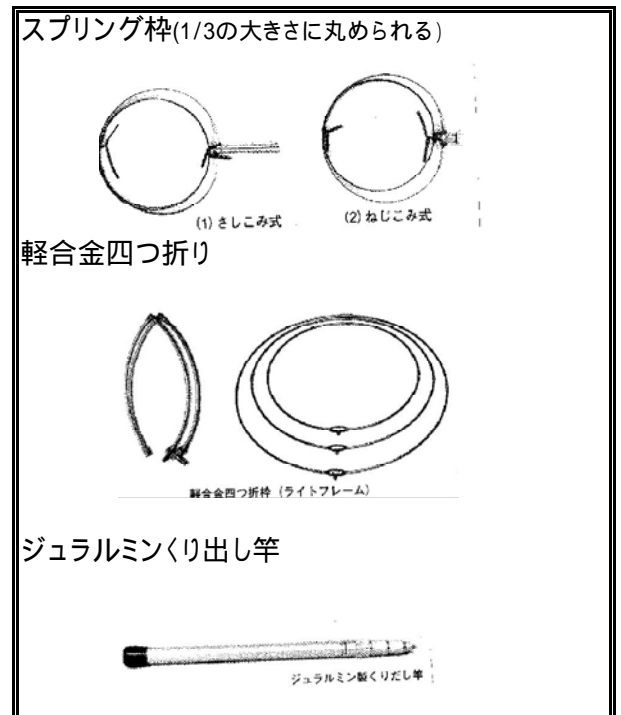
販売店

① 志賀昆虫普及社

品川区平塚2-5-8 (戸越銀座より徒歩3分) TEL 03-5858-6401
営業時間 9:00~17:30 ※詳細は HP <http://www.shigakon.com/> を参照のこと

② むし社

中野区中野2-23-1 (JR中野駅より徒歩6分) TEL 03-3383-1461
営業時間 11:00~20:00 ※詳細は HP <http://www.mushi-sha.com/> を参照のこと



【 昆虫採集の網(ネット)の選び方 】

1. 基本的な考え方

(1) 昆虫を捕る**ネット**は捕る虫によってそれにふさわしいものを使うことが基本である

①チョウやガ向き…網が柔らかで網の目が細かいもの。ネットの底は深いもの

特徴…網の中の空気の抜けが緩いので、翅を傷めず、鱗粉もはがれにくい。

網を振る際、空気をいっしょに入れて運ぶことになるので、重くなり、その分素早い動きをするには力がある。

(こどもにはむずかしい)

水濡れには弱く、一度ぬらすと、よく乾くまで使い物にならない。

何かに引っかけると破れやすい。

トンボなど、チョウのように鱗粉はがれの心配のない虫向き…網の目が比較的粗く、糸も丈夫なもの

特徴…網の目は粗いので、抵抗も少なく(空気の抜けがよい)軽く素早く振れる

水濡れには強くないが、①ほどではなく比較的乾かしやすい。

これで蝶を採ることもできるが、翅を傷めたりすることがあるので蝶には不向き。

(そこを技術でカバーする腕があれば問題ないが)

③水棲昆虫や魚など向き…水には強く、網の目は粗い(ネット底は浅い)

④捕る虫によっては、直接手で捕れるものも多いので、ネットを使わないか、虫のつかみ損ねを防ぐため、下で受けておくために補助的にネットを使うことがある(この場合はどのネットでもよい)

⑤それ以外の昆虫に対しては、上記のどれかで、たいてい間に合うので、基本の種類は以上のとおりとなる

(2)**ネットの枠**は、ソフトなものとはハードなものとは2種類ある

①ソフトタイプ(スプリング式)

特徴…何よりも使わない時には捻って畳むことができるので、移動に便利である。

枠が柔らかいので、木の小枝や草などの抵抗には弱い(草を払うなどのとき)。

どちらかというと、小～中口径のネットに使うのが普通。

②ハードタイプ(軽合金四つ折り式)

特徴…軽合金製なので、しっかりしている。竿から外して4つに畳めるが、竿につけたままたたむことはできない。

小～大口径のネットに使える。

(3)ネット枠の口径(口径はネット枠の**直径**で表示される)

大きいほどよく捕れるというわけではない。ネット枠に合わせて、ネットも口径がきまっている。

枠径よりも1段階ネット径が大きくても使える。

サイズ…30cm、36cm、42cm、50cm、60cm、70cm…がある。

①サイズが大きくなれば枠を畳んでも、大きなものになる

②サイズが大きいほど、ネットをつけて振る時の重さは重くなり、敏捷な扱いは難しくなる

とくに、チョウ用のネットでは、ネットに入れて運ぶ空気の量がたくさんになりより力が要り、小回りが利かない。

③通常は、42 前後が用いられている

大人ならこれが一番扱いやすいからである。もちろん自分の目的により決めればよいことではある。

④大口径なら一度にたくさん捕れる（そういうこともあるかもしれないが、特にチョウやガには通用しない）
網の中で獲物がぶつかり合い翅や鱗粉を破損させることになり、取り込みが難しい。

(4) 竿が長ければより多く捕れるというわけではない

①竿は自分の背丈前後の長さが、一番敏捷に虫の動きに対応できる長さである

②この長さでは近づくことができない、届かないときだけに、竿を伸ばして使う

そのために伸ばすことが出来るようになっている。使い方を知らない人が多いが、これが基本である。

時に、自分の背丈くらいの長さで固定できない竿を使っている人がいるが、し損じる確度も高くなる。購入の際によくチェックしておくことが必要である。

③竿とネット枠の接続部の固定

ネジで固定するタイプがほとんどだが、ネットを振る力がネジを緩めてしまうことが多い。

これは構造上致し方ないことである。この緩み防止には、ビニーテープを常備しておいて、取り付けの都度、テープでネジ部を固定するようにすることで対処。

④長竿は、振り回すことはできない

振り回すと竿は折れてしまう。高いところをゆっくり狙って、かぶせて下すという一動作しかできない道具である。それに重くなるので、相当に力持ちでないと扱えない。

2. 年齢(経験)に応じたネットの選び方

(1) 初心者用(子ども向き)の網

①子どもたちのネットの使い方は、カ一杯で振り手加減ができない

つい、力任せに扱い、壊してしまうことが多い。高価な網を与えても、力が足りないので効率的に使えない。このため安価なもので慣れさせることを中心に選ぶのが賢明である。

②ネットの振り方は横に払うように使うのが一番捕れる確率の高い方法である

しかし、子どもたちはつい、上から振りおろして地面に押さえつける。これは本能的なもので、これを直すには時間がかかる。壊れてしまうのを覚悟で与えざるを得ない。

③安価なネットは、ホームセンターなどやインターネットで様々なものが売られている

竿の長さは身長程度。網の深いものがよい(水棲昆虫には魚用を)。網は空気抵抗の少ない粗い目のものがほとんど(軽く扱える)。長く伸ばせる機能はついている方がよいが、基本は身長程度で、伸ばすのは、必要な時だけということをよく教える必要がある。子どもたちは長くなるのがうれしくてすぐに長くしたが、長いままだと捕るのに失敗することが多いし、自分の竿が足に絡まったりしてケガすることもある。

とにかく軽くできているので、この安価な網が子どもたちには一番使いやすい。

(2) 少し慣れたあと、小学4、5年生くらいまでに適した網

昆虫の専門店やホームセンターにある、粗い目(メッシュ)の網で、ジュラルミンの竿、枠は固定式の比較的安価なネットがお勧め。口径は36cm 前後。軽くて振りやすいのである程度慣れた子ども向きのネットである。

(3) 本格的な網

1 項で述べたものを、自分の捕りたい虫に合わせて、網、フレーム枠、竿の組み合わせを考えてそろえる。

3. ネットの種類と専門店の事例

【虫とり網の種類】を参照してください。

なお、価格はあくまでも目安ですので、売価は販売店へ直接お確かめください。

4. その他の留意点

(1) その他の網(ネット)

- ①「お散歩ネット」と呼ばれる竿の短い(20~30cm)携帯型のネットがある
この場合枠の口径は36cm 程度が使いやすい。
- ②口径が 10~20cm 程度の小さい網。これは蟬取り専用である
虫にかぶせても木と網のすき間から逃げられるので、口径を小さくしてある。
- ③虫捕りで小甲虫を、木の枝を叩いて落として捕る(ビーティングという)時の、下で受ける正方形の平網がある
傘で代用することもある。

(2) ネットの色

- ①色は、白、赤、緑(少ないが黄、青)がある
特にどれがよいということはない
- ②赤には、一部のアゲハチョウが寄ってくる(カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、クロアゲハなど)
アゲハを狙う場合に赤ネットを使う人もいる。
ただし、オナガアゲハやジャコウアゲハ、アオスジアゲハは白い花のほうが好き。
- ③網の動きが目当ての昆虫にわかると、逃げられてしまう
気づかれないようにそっと近寄りネットもそっと近づけて、さっと採るのが、網振りの原則である。
その際、なるべく相手に悟られない色としては、濃い緑、濃い目の茶、草木染のような色、迷彩色がいいと思うが、それはまず売られていない。
- ④白は普通であるが汚れやすい(が少し汚れたほうが目立ちにくい)
赤色が見えない虫も多く、目立たないだろうが、逆にそれは虫には黒く見え、大型の鳥と見間違われて警戒されることもある。

ということで、色は虫が捕れる捕れないとはあまり関係なく、それよりも虫の居場所と習性をよく知って、相手の上を行くそういう採集技術のほうが、多く捕れるかどうかの決め手になるということだろう。

(3) その他の留意点

- ①竿やフレームは、つり道具として発達してきた技術を転用している
つり道具で直接使えるものは、岩場からの投げ釣りなどで、かかった魚を取り込むための竿と網のフレームである。
適当なサイズがあれば、これを釣り具店の安売りなどで買うと安価で入手できる。
- ②いろいろなネットがあるが、長さや重さで、自分が狙いとする昆虫の習性にあった、敏捷な操作ができるものが一番である
長竿は高いところに止まるミドリシジミなどを狙う特殊用途のネットである。汎用性は乏しい。
- ③カブトムシやクワガタムシのように、脚の爪が鋭い甲虫をこの昆虫ネットで捕ると、脚の爪が網に食い込んで、引きはがせないことになる
無理をして引っ張ると網が破れるか、虫の爪を損傷する。これらの甲虫は、手や木切れなどに乗り移らせてピックアップするのが常道である。